

令和元年度 自己評価結果公表シート

学校法人 星名学園

1、法人の教育目標

「明るく 正しい 賢い子」を建学の精神とし、「遊びの中・生活の中での言語」を教育の目標として日々の保育に取り組む。

本法人ではめざす幼児像として次の5項目を活用する

- 1、心の教育 2、音感教育 3、自然教育 4、言語教育 5、体育遊び

2、法人の運営する学校及び施設

- 1、木津幼稚園（幼保連携型認定こども園）
 2、公私連携幼保連携多賀認定こども園学園台こども園（幼保連携型認定こども園）
 3、子育て支援センター「smile」私学助成子育て支援事業

3、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

幼稚園型一時預かりの事業化を目指す
 造形活動のため講師をお願いし、ドキュメンテーションとして内外に発表を行う。
 安全管理体制を強化する

4、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程を幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	世界平和、国際協調を念頭に置き、国際社会に対応できる人材の育成を目指し、日常の中の言語を中心に進めている。新たに、大きく保育を取りこみ、就労に左右されることなく良質の幼児教育を受けられる環境を作る。
教育要領、教育課程を子どもの実態などをもとに考えて作成している。	子どもが負担を感じることなく、無意識のうちに向上できる手法として漢字・英語のアクティブラーニングを行う。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	リスクマネジメントとして子供における危機管理を書面にて行う。 ヒヤリハットの活用
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	園内研修を行い各々教職員が自分の保育を見直す機会を設ける
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どものよさを認め、保育教諭が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	STEAMを取り入れ、自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようになっている。

規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう。	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。リズムを大切にし、音だけでなく生活の部分でもリズムを鍵とし、日々の生活を重点とする。
全職員が年に1回以上公開保育を行なう。	各教職員が公開保育を行い、保育を見てもらう事によって、よりよい保育環境を意識できるようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	教員免許更新講座に積極的に出席し研鑽を積む。 職員間の意思疎通をする会を作る。
ICTの強化	タブレットの増台を行い、卒園式のライブ配信、職員・園児の入退室管理など行えるようにする。
園の財務状況を積極的に公開する。	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。
安全管理	非常通報装置の設置、夕方の玄関施錠の徹底、AEDの設置。 防犯カメラの増設、ジアイーノの増台、熱射病予防のための日陰作り

5、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	幼稚園型一時預かりの事業化には一定の結果が得られた。 造形活動においてドキュメンテーションでの発表に評価が得られた。 衛生用品や防犯のハード整備が出来た。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
新型コロナウイルス感染症によるさらなる衛生管理	常時衛生管理のことを頭に入れる必要がある。 消毒液の選定、ハードの導入、マスク、アルコールの購入、職員のメンタルケア
新しい教育の取り組み	学園台こども園においては運動教室と硬筆習字の常習化、木津幼稚園においては子どもの自らの発見や学びを先生自身が感じ取る力を養う活動や研修を行っていく。 法人や職員の評価の方法を最適化し、子どもの学びと利益に直結する形に整える。

6、学校関係者の意見

(職員) 優 (良) 可 (学園理事会) (優) 良 可 (学園評議会) (優) 良 可 (保護者会) (優) 良 可